

## 認知症作業療法 活動報告 (概要)

北海道作業療法士会では、昨年度より認知症施策推進委員会を発展解消し、地域部認知症施策推進課として事業を継続している。事業内容は①人材育成事業、②広報事業、③調査事業、④渉外事業を4本柱として進めているが、昨年度は新型コロナウイルスの影響により、研修会は重点課題研修のみの開催に留まった。一方、調査・広報事業として「作業療法士が関与する認知症施策の実践事例集」を発刊するに至った。事例は9事例、トピックス3例からのスタートではあるが、今後もアップデートしていく予定である。

## 人材育成事業

昨年度は、重点課題研修として「認知症の人の働く地域支援」をテーマに、北海道で開催された「注文を間違えるレストランin石狩を中心に」についてのリモート研修を実施した。今年度は、「認知症高齢者の食べる喜びを支える摂食嚥下リハビリテーション」についてリモート研修会を開催する予定である。

## 広報

2019年度より行っていた会員向けへの家族会コラムを、今年度より道士会地域部他課と協業して継続している。またコラムの波及効果として認知症の人への地域支援の講演依頼に繋がりを、作業療法士以外の関連職種との関係を築く一助となっている。

昨年度は、世界アルツハイマー月間に合わせて、市立図書館の毎月祭事コーナーに認知症関連の書籍を展示させて頂いた。図書館利用者の関心は高く、認知症の人への理解を進める一つの機会となった。

## 作業療法士が関与する認知症施策の実践事例集事業

道内の作業療法士の実践事例について、GoodPractice(GP)を用いてまとめた本事例集は、認知症施策に作業療法士が関与する際の参考にする目的で令和3年3月に発刊した。

今年度は本事例集を用いて普及啓発を行う。会員に対してはHPからのDLでの配布を行い、北海道、市町村及び地域包括支援センターに対しては冊子の配布を行う。さらに、他職種や住民向けに本事例集を使用した研修や講話を行うなど、道民に対する公益的な事業について、企画・検討を進めている。

また、新たな実践事例についての調査を行い、事例の追加を予定している。

## 今後の展開

昨年度はアップデート研修を見送ることとなったが、今年度はリモート開催も視野に入れて、新たな研修会スタイルを検討中である。また、認知症カフェなど現地参加型の研修会も状況に応じて開催していく予定である。一方、これまでの研修会参加者に対するアンケート調査結果を裏付けとした、実施可能な新規事業の企画検討を進めていく予定である。



家族会関連コラムの一例



図書館入り口の設置状況

北海道における

作業療法士が関与する

認知症施策の実践事例集 Ver.1.0



認知症施策の実践事例集表紙